

# 『時事直言』 No.1720 2025年1月14日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

## トランプのウクライナ停戦合意は「ドス」次第

「大統領に就いたらウクライナ戦争を即日終わらせる」言ったトランプが、「6 か月以内に終わらせる」に話が変わった。

トランプの言う 24 時間が簡単に 6 か月に変わるのだから誰でも、選挙目当てのいい加減な話だったのだと思うだろう。

トランプはゼレンスキー(ウクライナ大統領)には、「俺の言うことを聞かないとウクライナ援助を停止するぞ」という脅しのカードを持っている。

ところが現在、トランプにプーチン(ロシア大統領)を従わすカードはない。

2024 年 3 月のロシアのクリミア併合以来対露制裁を掛け、2022 年 2 月 24 日のウクライナ軍事侵攻に対しては SWIFT から除外など最も厳しい制裁を課してきたが一時的インフレも収まりロシア経済に支障はない。

ウクライナの戦場では、ロシア軍はロシア系住民が多いドネツク、ルガンスク、ヘルソン、ザポリージャの 4 州を支配下に収めている。

一方ウクライナは 2024 年 8 月 6 日にロシア領内に越境侵攻、クルスク州の約 1,000 キロ平方を支配下に収めたが、現在の占領地は半減している。

ウクライナ本土が戦場になり 3 年が過ぎ、ウクライナ国民の生活は限界に達している。

又西側から F-16 戦闘機など高性能の兵器が供与されても、ほとんどの熟練兵士は戦死していて、にわか仕立ての兵士ばかりで「猫に小判」の状態になっている。

時間はプーチンを利し、ゼレンスキーを害する。

戦争を続けられないゼレンスキーは停戦を望み、勝つことが決まっているプーチンは望まない。

時間が経てばロシア軍はウクライナ全土を占領出来るのに何故今停戦なのか。

トランプはプーチンに対して「強大な圧力」を持たねば停戦交渉の可能性はない。

トランプには実行しなくてはならないことがある。(属するシンクタンクを通しての私の助言)

1. CIA 支援のテロリストを使ってロシアから中国への原油と天然ガスのパイプラインと輸送トラックを破壊する
2. ロシア原油を欧州へ送る為に経由している第三国に制裁を掛けて対欧禁輸措置を徹底する
3. 米空軍支援でイスラエルのネタニヤフ首相の野望、イラン空爆によるイラン軍事施設壊滅を実行する

ロシアの原油、天然ガス輸出の抜け穴をふさぎ、ロシア最大の同盟国、ロシアの兄弟分のイランを壊滅に追い込む。

以上を 6 か月以内に実行したところでプーチンとウクライナ停戦協議を行えば数時間でウクライナ停戦合意は出来る。

ゼレンスキーはトランプの言うことは何でも従うが、プーチンには背中にドスを突き付けないと話は出来ない。

増田俊男の「プーチンの背中にドス」の戦略である。

多分トランプは 6 か月以内に実行するだろう。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。